たちばな新聞

水谷山
寶清寺

橘墓苑　睡蓮堂

橘墓苑
水谷庵
睡蓮堂
たちばな会館

## 明けまして　おめでとう　ございます

新しい年を清々しいお気持ちでお迎えのことと存じます。

**今年も、「授かった生命を空虚なものにしないよう」、日々健康に留意し、平穏な日常を送りたいものです。**

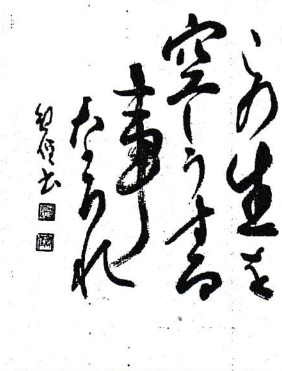
年頭に当たって、昨年、日蓮聖人が亡くなられた命日に、全国の日蓮宗寺院で行われる第七三二回の「お会式」での住職の法話を紹介致します。

## 日蓮聖人遺訓　第三十六回

**「天地は国の明鏡なり」（法蓮鈔）**

この御遺文は法蓮法師から父親の十三回忌の供養の品を受け取られたことに対する返書の一節です。

科学が発達し、私たちは病気や怪我が治りやすくなり、衛生的でよりよい生活を手に入れました。しかし、それは自然のあり方からすると遠退いたとも言えます。昨年は、世界中で私たちが経験したことのない災害が起こっています。**ある哲学者が、『人間が生活の便利さと経済発展のために乱開発を続けると、必ず自然のしっぺ返しがある。』と述べていたことが思い出されます。天地は私たちの営みを写す鏡と言われます。その意味するところを理解し、未来へと歩む必要があるのではないでしょうか。**



右の色紙は法話のために住職が揮毫したもので、日蓮聖人のご遺文で、乱れた世の中を安穏に導く教えを明かされた論文、「守護国家論」の一節です。

**日蓮聖人が活躍された鎌倉時代は、飢饉・疫病・元寇など、国の内外の問題に人々は安穏な生活が送れないほど、世の中が混乱していました。**その結果、宗教に救いを求めようと、新しい仏教が台頭します。

浄土宗・浄土真宗・臨済宗・曹洞宗・日蓮宗・時宗等です。日蓮宗以外は、「死後に極楽往生をするには、一心に仏を想い、念仏を唱える行を行う以外に方法がない。」という浄土教の基礎を作った源信が、九八五年に著した「往生要集」に説かれた教えに寄るところが体勢を占めていました。

**つまり、阿弥陀如来に帰依して念仏を唱え、死後極楽浄土に往生することを願う「他力本願」の教えです。**

**それらに対して日蓮聖人は、念仏や密教の教えを否定し、法華経の教えによって現世の中に利益を求めていこうとされました。**その結果、幕府や念仏者を批判して、人心を乱したという理由により、「伊豆法難」・「小松原法難」・「松葉ケ谷法難」・「龍口法難」など、数多くの法難を受けます。

**つまり、日蓮聖人の教えは国や社会が滅びるかも知れないという危機感から、自力で現状を改革しようとする「自力本願」の教えです。**

**現代は、鎌倉時代に国が抱えていた社会的問題とは違いがありますが、外交・不況・高齢化・少子化・教育・TPP・消費税の問題や暴力や短絡的な殺人事件が頻発する等、様々な問題を抱えています。**

その問題に対して、現状の既得権益を守ろうとする動きと、「他力本願」的に、その動きにゆだねようとする国民の姿がある一方、改革を強く進めようとする動きと、「自力本願」的に指示する姿も感じます。

鎌倉時代と現代と時代は違っても、国や社会が滅びるかも知れないという危機感から、現状を“改革”しなければならないという“改革”を受け入れようとする社会的機運の高まりは、似たものを感じます。

しかし、現代の問題は複雑で容易に解決を望む事は難しいと思いますが、消費税の値上げはやむを得ないという人が多かったり、京都の九条ネギの生産者が外国産の野菜が多量に輸入されれば壊滅的な影響を受けるかも知れないとの危機感から、パリのベルサイユ宮殿で晩餐会を開き、好評だったり、トヨタ自動車がロボットの向上のために熟練工を養うことに力を入れるなど、改革の姿勢が感じられます。

**日蓮聖人のお言葉は、『人生を空虚なものにしないためには、正しいことに対して、素直に真剣に取り組む事が大切だ。』と教えています。**

**しかし、我々の日常生活の取り組みは、ややもすれば、人任せで、中途半端になってはいないでしょうか。**

**『何事にも真剣に取り組めば、知恵が湧いてくる。**
**中途半端に取り組めば愚痴が出る。**
**いい加減に取り組めばだめになる。』**
**ものだと思います。**

我々は出来れば楽をして一生を終わりたいと思うものです。その意識のせいか、自分が今まで出来ていたことも、年のせいにしたり、病気のせいにして、自分を甘やかしがちです。そうすると、体力は衰え、痴呆を早めたりするのではないでしょうか。

たとえば、食事が出てくるのを待っている生活と、自分でも出来る範囲で、温めたり、運んだり、話の輪に入ったり、片付けたりするだけでも、老化や体力の衰えを防ぐ事ができると思います。

**現代人の傾向として、何事も人任せで、自分で出来ることも努力しないで、中途半端な対応をする人が多い。その結果、愚痴や不平不満を言うだけの人が増えているのではないかと思われます。**

**一人一人が日常生活の中で、正しいことに対して、真剣に取り組むように心がける事が大切なのではないでしょうか。**

## 住職ひと口法話　第三十六回

昨年、十一月十四日、宮内庁は、今後の天皇、皇后の葬儀の概略と、天皇、皇后両陛下の「お気持ち」を発表した。『江戸時代初期から続いてきた土葬を改めて四〇〇年ぶりに火葬とし、陵（天皇、皇后のお墓）は規模を縮小して天皇陵、皇后陵が寄り添うように一体的に整備する。伝統を踏まえたうえで、国民生活にできるだけ影響がないように、』との両陛下の意向をもとに、同庁が一昨年四月から検討していたことを発表し、これからの御陵や御葬送全体についても、『極力国民生活への影響の少ないものにすることが望ましいのではないか。』と両陛下のお気持ちが伝えられた。

現代日本の葬儀は盛大であったが、最近は、家族葬、無宗教葬、葬儀無用論などが言われ始め、埋葬に関しても散骨、樹木葬、墓友などの風習が広まりつつある。社会の変革に加え、従来の葬送習俗に飽き足らないものがあるからかも知れない。**しかし、葬儀とは、古代から死者が無事にあの世に着き、そして再びこの世に生まれ変わる儀式であり、それが何万年もの間、人類普遍の信仰だった。縄文人が幼児をかめ棺に入れて葬り花束を捧げ涙した姿は、科学が長足の進歩を遂げ、社会が大幅に変革した現代でも、死者への心情は少しも変わりはない。葬儀はだれのためにいかなる目的で行うものなのか。民間に広まりつつある、新しい習俗を安易に受け入れて良いのかを改めて考えてみる必要がある。**

発行 寶清寺 東京都あきる野市小川 101 番地　電話 042-558-2663　FAX042-558-2693　たちばな会館電話 042-550-5868

---

## 行事案内

今号は、元日発行の新年号ですが、皆様のお手元に届くのは、おそらく年末だと思いますので、年末年始にかけてのご案内をさせて頂きます。

年末に除夜の鐘が鳴り響くと、いよいよ今年も大詰めを迎え、寺院や神社にお参りに行かれる方も多いことと思います。

年末にお参りされるのは、お礼参りと言いまして、本年一年が無事に過ごせましたと、お礼に伺うのが正しい姿でしょう。また、年始に参拝するのは、本年一年も息災に過ごせることを、お願いするなど、年末と年始のお参りは違う意味を持っています。

ところで皆さんは、除夜の鐘の意味をご存じでしょうか。一〇八の煩悩を取り払うとは聞いたことがあると思いますが、この一〇八の煩悩というのが、具体的に何なのか詳しくはご存じないと思います。

一〇八という数字には諸説ありますが、最も有力なのが、六根説です。

人間には六つの感覚器官があり、身体の内外にこの情報が行き来していると考えられています。

六根とは眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根の六つです。眼は外界のものを見、耳は音を、鼻は匂いなど、色々な情報を取り込む器官です。この情報には、好きなもの（好）と、嫌いなもの（悪）と、どちらでもないもの（平）の三種があるといわれています。六根と好悪平には、それぞれ浄と染の二種があります。浄とは清浄にする要因で、染は、その逆の汚すものです。耳から嫌な音や、話しを聞けば不快な気持ちになり悪いものが染み渡るのです。

六根にそれぞれ好悪平があるので、十八種になり、この十八種に浄染の二種があるので、三十六の煩悩になります。

これらは、前世から引き継がれ、今世に影響し、今世でおきた煩悩は、来世にも伝播するので、一〇八の煩悩と言われるのです。

つまり、煩悩とは自分の中にあるだけでなく外界からも影響をうけて発生していることが分かります。この煩悩が色々な悪さをして、他人を傷つけたり、自分自身をも攻撃し、これが苦しみとなって現れるのです。

大晦日の除夜の鐘が、煩悩を取り払うのではなく、この鐘の音を聞いたら、一年間にためた煩悩を払い清め、心を清浄にする一年最後の心の大掃除と言えるでしょう。心の大掃除が終わったら、いよいよ新年です。身も心も新たにし、良い新年をお迎え頂けることを御祈念いたします。

## 日蓮聖人伝

### 第壱話

今回より、日蓮聖人伝を掲載いたします。

日蓮聖人がどのような人物であったか、数多くの法難に遭遇しても、不屈の精神によって民を救済し続けた、その根底に流れているものは何なのか。聖人と弟子や檀越（檀家）との結束の固さや心の機微などを取り上げ、また鎌倉幕府に単身で諫言をおこなった聖人の本意など、その時代的背景も勘案しながら掲載したいと思っております。

『御生誕』

日蓮聖人の御生誕は貞応元年（一二二二）の二月十六日です。今から七九一年前に聖人はご生誕されました。

あと九年もすると、御生誕八百年になりますので、盛大な行事が日蓮宗関係寺院にて執り行われることでしょう。

生誕地は千葉県の小湊の海の近くと言われています。現在は、生誕地に、「誕生寺」が建立されております。

すぐ側には鯛の浦（妙の浦）があり、聖人が帰郷した際、海にお題目を書くと、鯛がどこからともなく集まり、そのお題目を食べてしまったという言い伝えがあり、爾来、妙の浦にいる鯛は、尊いので食べなくなったと言われています。

## 編集後記

先日、葬儀社さんに焼香は何回が正式なんですかと聞かれました。

日蓮宗では三回または一回が正式とされております。

師匠から教わったことによると、三回は仏法僧に法味（ほうみ）を捧げるという意味と記憶しています。一回はそれを簡略した形で真心をこめて差し上げるのだそうです。

葬式に渡す、「香典」も焼香代の意味をもっており、古くは香木を火葬用の薪に使用したことが起源となっています。

以前、葬儀に参列している高校生が、焼香をする時、抹香の匂いを嗅ぎながら焼香をしているのを見かけました。

親は抹香を額に近づけ、捧げる仕草していたのですが、背中越しに見ている青年にとっては、「捧げる」を「嗅ぐ」と勘違いをしていたようです。

また、同僚の僧侶から、葬儀に参列した外国人が焼香を食べていたと聞いたことがあります。

私たちは、葬儀だけでなく、お宮参りや結婚式など様々な場面で、作法というものに接します。

また、この様な場面に出会ってから適切な作法を要求されても、知識がない状況下では、奇想天外な行動を取ってしまっても、致し方ないことでしょう。

われわれ僧侶も、檀家様や信徒様と接する機会が多いので、そのような時に是非とも疑問に思ったことはご相談下さい。

## 宝清寺の草花

宝清寺で見られる草花として、また正月の草花としても有名なのが七草の一つである薺です。

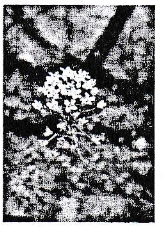
薺の語源は、定かではありませんが、夏に枯れることから「夏無」と、また撫でるほど可愛いので「撫菜」と言われるようになり、この呼び名が変形してナズナとなったとも言われています。

別名、ペンペン草や三味線草とも呼ばれ、葉がハート方になっており、その名の由来は、軸を中心に回転させると、音がすることから付いたようです。

七草は芹、薺、御形、繁縷、仏の座、菘、蘿蔔の以上、七種を指しますが、スズナは蕪、スズシロは大根と言ったほうが分かりやすいでしょう。

仏の座は小鬼田平子という標準和名を持っており、こちらも宝清寺境内で見かけることができます。セリは湿地を好む植物ですが、宝清寺には湧水があり、数は少ないですが確認することができます。

写真だけ見ると、セリと藪虱は似ており、宝清寺境内には、この藪虱も棲息しています。



宝清寺の薺

### 宝清寺の年中行事

| | |
|---|---|
| 三月彼岸中日 | 塔婆供養 |
| 四月八日 | 花祭り |
| 七月十七日 | 盂蘭盆供養 |
| 七月十七日 | 施餓鬼法要 |
| 九月彼岸中日 | 塔婆供養 |
| 十月十二日 | お会式法要 |

### 日蓮宗の聖日

| | |
|---|---|
| 二月十五日 | 釈尊涅槃会 |
| 二月十六日 | 宗祖降誕会 |
| 四月八日 | 釈尊降誕会 |
| 四月二十八日 | 立教開宗会 |
| 五月十二日 | 伊豆法難会 |
| 五月十七日 | 身延御入山 |
| 七月八日 | 本尊始顕会 |
| 八月二十七日 | 松葉谷法難会 |
| 九月十二日 | 龍ノ口法難会 |
| 九月十八日 | 池上御入山 |
| 十月十三日 | 宗祖御会式 |
| 十一月十一日 | 小松原法難会 |

### 御祈願・御供養

- 交通安全
- 商売繁盛
- 虫封
- 方位除
- 開運祈願
- 安産祈願

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二－五五八－二六六三
FAX・〇四二－五五八－二六九三
インターネットホームページ
http://www.ab.auone-net.jp/~houseiji/
メールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp